

令和 6 年度 県立水戸農業高等学校自己評価表 (全日制)

目指す学校像	心身の健全な発達を図り、自主性・実践力に富む社会の有為な形成者としての人格の完成を目指し、農業経営者・関連産業技術者を育成する。 一 知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校 一 生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校 一 魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校 一 体験学習等を通して、コミュニケーション能力を磨くことができる学校 一 地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともに、それらに開かれた学校			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域社会の役割の一端を担える力を備え、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に社会に関わることができる人財の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	生徒一人一人の多様な進路希望や学習のニーズに合わせた教育活動において、体験的な学びから知識・技術を確実に身に付け、就職や進学を実現できる人財の育成		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	学科の特色に応じた専門教育に取り組む姿勢があり、チャレンジ精神旺盛で、夢の実現に向けて自ら主体的に考え行動できる人財の育成		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
[昨年度の成果] ・身だしなみ指導・立哨指導等により基本的生活習慣を意識して学校生活を送る生徒が多く見られた。 ・進路指導において、四年制大学では獣医学部獣医学科に合格した。 ・就職においては就職率 100%を達成した。 ・ボクシング部、なぎなた部、馬術部が全国大会に出場するなど各部とも優秀な成績を収めることができた。 ・農場開放行事として年間 33 回延べ 1156 名の地域住民や見学、農業体験児童、生徒を受け入		・基本的生活習慣を身に付け、コミュニケーション能力の育成を図る生徒指導体制の確立	・基本的生活習慣や規範意識を身に付けさせ、身だしなみや言葉使いに気をつけることで、社会の形成者として必要な資質の基礎を養う。 ・豊かな人間性を育み、コミュニケーション能力の育成を図ることで、いじめ防止につながるような、より良い人間関係の構築に努める。	A
		・きめ細かな学習指導体制と系統的な進路指導体制の確立	・主体的な学習に取り組む習慣を身に付けさせ、基礎学力の定着を図る。 ・生徒の関心・意欲を引き出し、思考力・判断力・表現力の育成につながるような観点別学習状況を踏まえた学習評価を徹底させる。 ・系統的な進路指導体制を確立させ、生徒の進路に沿った自己実現のための、適切な支援・指導を行う。	A
		・特別活動及び部活動の充実	・ボランティア活動、社会教育活動、環境美化活動等への積極的な参加を促す。また、学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動を充実させ、生徒に達成感を持たせる。	A

別紙様式 2 (高)

れた。校内外で 17 回の直売会を実施した。 〔課題〕 ・身だしなみ指導等を中心に規範意識を高め、規則を守れる生徒を育てる。 ・思考力・判断力・表現力等を高める観点別評価を徹底する。 ・WEB 学習サービスを有効活用し、個別最適な学びを進めることで、主体性を育むとともに基礎・基本の確実な定着を図る。 ・部活動紹介を実施し、部活動加入率の上昇と各部活動の更なる活性化を図る。 ・外部との交流について生徒の振り返り（フィードバック）を徹底する。 ・資格取得を奨励し、主体的に取り組む態度を育成する。 ・探究学習やアントレプレナーシップ教育を充実するとともに、高大接続・連携を推進し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。		・運動部・文化部等の加入率の向上を図り、部活動の活性化に努める。 ・特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通した振り返りを通して、自身の変容や 成長を自己評価できるようキャリア・パスポートを活用し、生徒自身が主体的に学びに向かう力を育み、生徒の自己実現につなげる。 ・ボランティア活動、社会教育活動、環境美化活動等への積極的な参加を促す。また、学校行事、ホームルーム活動、生徒会活動を充実させ、生徒に達成感を持たせる。	
	・健康と安全教育の充実	・学校施設等の点検・充実に努め、安全な校内環境の整備を進める。安全教育の徹底、特に交通事故の絶無に努める。 ・防災、不審者対応などのマニュアルに基づいた危機管理を徹底し、訓練等による十分な備えを怠らないようにする。 ・生徒及び職員の健康管理に努め、新型コロナウイルス感染症等の防止、健康の保持増進を図る。	A
	・地域と連携した農業教育の充実	チャレンジプロジェクトへ取り組みを推進することで、魅力ある農業教育を実践し、農業後継者及び関連産業技術者の育成を図る。 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組みせ、学校農業クラブ活動の充実を図る。 ・地都市町村の催事に積極的に生徒を派遣し、開かれた学校づくりを継続・発展させるとともに、地域と連携した体験学習（インターンシップ等）の充実を図る。 ・HP等を通して学校の教育活動を積極的に広報し、学校・家庭・地域社会の連携の下、開かれた学校づくりを推進する。 ・敷地、施設・設備の公開及び貸し出しにより、地域活性化の拠点となる。 ・最先端の職業教育を行う「スマート専門高校」を実現し、地域の産業界を牽引する職業人材の育成を図る。	A
	・主体的・対話的で深い学びの実践（授業改善）	・教わる授業から学び取る授業へとつなげるため、ICT の活用や、地域の特長を生かした地域社会との交流を通し、課題を見だし解決策を講じるなど、自己の考え方を広げ「主体的・対話的で深い学び」の実現につなげる。 ・「生徒による授業評価」の観点の一つである「授業満足度」の評価平均値が 3.0 以上（KPI）になる。	B
	・働き方改革の実践	・学科や部門ごとに業務内容を見直し、教職員の主体的な実践に向けた啓発、業務の効率化、業務量の削減に努めるための組織を設置する。	B

別紙様式 2 (高)

			・教職員の健康を増進するため、勤務時間を意識した働き方の実践を強化し、時間外在校等時間の縮減に努める。 ・完全退勤時間、定時退勤日を設定し、退勤時間の遵守を徹底する。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教務部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究	基礎学力の向上	A		A タブレットを活用した授業や学習の充実を図る。 教科基準の正さを行う。 授業参観を促す。 学年団と密に連携する。 資格補助を拡大する。 更新頻度のアップする。 学年・進路との連携を図る。 学校見学会・学科体験の内容の精査と充実を図る。 有線・無線ネットワークシステムの充実を図る。
		授業での ICT 活用を推進し、情報機器の整備・拡充を図る。また、タブレットを活用した授業の充実を図る。	A		
		新教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。	A		
		新学習指導要領に対応した新たな教育課程を編成する。	A		
	基礎・基本の確実な定着	授業研究（授業参観等）を実施し、授業内容の充実を図る。	A		
		基礎学力の向上を目指し、進路指導部や学年団との連携を図る。	B		
		進路指導部や農場部との連携により資格取得に向けての取組を強化する。	B		
	広報活動の充実	情報関連部門を中心に、ホームページの定期的な更新・内容の充実を図る。	A		
		奨学金制度の広報活動を充実させ、生徒の進路実現の一助とする。	A		
		中学生や受検生に向けて、学校見学会、学科体験、部活動体験を充実させていく。また、出前授業や実習の受け入れ等を積極的に行う。	A		
	教育情報ネットワーク環境の整備	校務支援システム・校内ネットワークシステムの整備を進める。	A		
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	身だしなみ指導等を通して、挨拶の励行や身だしなみを整えさせ、学校生活における基本的生活習慣の確立を図る。	B		B 登下校時の身だしなみについて課題が残っているため、ルールについて共通理解を図る必要がある。 関連機関等と連携し、交通マナーの徹底を図る。 SC や SSW との連携による他者を思いやる心の教育を実施する。 知り得た情報の共有方法について確立する必要がある。
		ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ、生活改善を図る。また、遅刻や早退の減少及び体調管理の徹底を図る。	B		
	安全な学校生活環境の維持	HR・立哨指導等を通して、登下校の安全を確保する。また、自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。	A		
		講話や各教室を充実させ、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。	B		
	心の教育の推進	教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。	A		
		自らの立場を理解して他を思いやる心を育成するため、各種体験活動への参加を促す。	B		
	いじめ防止対策	未然防止として、授業やホームルーム活動を通し生徒の規範意識を高めさせる。	B		
		定期的なアンケート、教育相談により、実態把握や早期発見に努める。	A		
		早期解消に向け被害者を保護し、保護者や警察、相談所等と連携し、速やかに実態把握及び加害者の対応にあたる。	A		
特別活動	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部活動・農業研究部活動も活性化を図る。	B		A 部活動の加入率を上げるため工夫が必要である。 退部率を抑えるためのことを
		活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。	B		

別紙様式 2 (高)

		各活動場所や部室周辺等の環境整備の充実に努める。	A		考える必要がる。 休業日等の清掃に関して一部の部に偏りがでないようにする必要である。 部活動のリーダーを育成する。 集会等を開き、活動報告会を今後も開催していきたい。
	学校行事の充実	各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A		
	成達会活動の充実	HR活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	A		
	キャリア・パスポートの活用	HR活動等を中心として、各教科と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育む。その際、その記述をもとに対話的に関わることによって、生徒の自己実現につなげる。	B		
	教職員の働き方改革の推進	部活動月間計画表に予定・結果を入力することで、休業日の確保に努める。	B		
進路指導部	系統的な進路指導の充実 (多様な進路実現への対応)	今年度より導入した WEB 学習サービスを活用し、個別最適な学びを進めることで、基礎学力の定着を図り、ポートフォリオを作成することで、生徒の主体性を育成する	B	A	Web 学習サービスや高校生向け求人票管理システム Handy の活用方法を精査し積極的に運用することで、生徒が進路実現に向け主体的に活動できるよう環境を整備する必要がある。 就職における一人 2 社応募可や、大学進学における年内合格の割合の増加や「基礎力評価型」の導入など、変化する進路活動に適切に対応すべく、情報の収集、関係各所との連携や校内での研修などを実施し、本校生にとって最適な進路指導方法を確立する必要がある。
		学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。	A		
		今年度より 1 人 2 社応募が可能となった就職活動に対応すべく、関係機関や企業、他校の対応などの情報を収集し、本校における就職支援体制を構築する。	A		
	進学指導の充実	年内合格の割合が増加する中で、試験日が早まる総合型選抜(旧 AO 入試)、学校選抜型入試での合格を目指し、従来の小論文指導や面接指導に加え、年々増えているグループディスカッションや自己プレゼンテーションなど大学独自の選考に対する指導も充実させる。	B		
		大学説明会や大学見学会への積極的な参加を促し、希望する進路実現を目指す。	A		
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。	A		
		今年度からの「1 人 2 社応募可能」に対し、企業の採用意欲等をしっかりと把握しながら、適切な進路スケジュール(会社見学→エントリー・応募→受験→内定)を策定し、内定率 100%を目指す。	B		
	勤労観・職業観の育成	探究活動の充実、高大接続・連携の推進、アントレプレナーシップ教育の推進をすることで勤労観や職業観の育成を図る。	A		
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断・保健調査により生徒の健康状態を把握し、健康指導に活かす。	A	B	年度当初に学校安全計画を作成し、それに沿って対策をしていく。いつ起こるかかわからない事故、災害に対処的確に対応していくためのマニュアルの作成やその更新は毎年必要であり、情報を共有することも必要である。 事故を未然に防ぐためにも環境設備点検やその修復、予想される気候変動による災害・感染症対策等、計画対応をしていきたい。
		感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A		
		生徒の安心・安全のため、スクールカウンセラーなど関係機関との連携を図る。	A		
	校舎内外の学習環境の安全と防火防災対策の徹底	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	B		
		地域と連携した防災避難訓練を実施する。	A		
	教職員の働き方改革の推進	教職員が、健康的に仕事をして、教育活動の質を高めるために、一週間に一度は定時退勤をするよう働きかける。	A		
		教職員のストレスの軽減のために、相談体制の拡充を図る。	B		
図書部	本校の教育目標に応じた学校	農業教育の専門高校として、関係書類の整備に努める。	A	B	利用者数の増加

別紙様式 2 (高)

	図書館作りの研究	職員研修の成果として、紀要を発行する。図書・視聴覚資料等の整備に努める。	A		電子黒板の設置 蔵書の管理 資料集、参考書等の充実と活 用の促進 新刊図書の充実
	学校図書館を利用した教育の 充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。	B		
		図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	B		
	視聴覚機器の充実と利用	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	B		
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室や閲覧室の学習環境の整備を図る。書庫の書籍の管理環境を改善する。	A		
	司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・ビデオ等の除籍作業をし、蔵書点検を進め書籍の管理を図る。	B		
渉外部	本部役員・学年委員の連携と P T A 活動の充実	各 P T A 行事において、本部役員と学年委員との連携を図り、それぞれの役割を明確にする。	B	B	今年度で、学年委員の構成や 行事がある程度確立したの で、今後はさらなる改善点を見出し、より充実した活動ができるよう検討する。 より多くの P T A 会員の方々の行事への参加を促す。
		P T A 活動の内容を精選し、充実を図る。	A		
	校外生徒指導の実施	多くの会員が、校門での立哨指導に携われるよう促す。	B		
	主催行事の充実	水農祭・公開講座・研修会等の本部主催行事に関して工夫を凝らし、安全で安心できる環境を整えて、参加率を高める。	A		
	広報活動の充実	ホームページを通して、随時、行事等の案内や報告をすることにより、分かりやすく P T A 活動を広報していく。	A		
農場部	農業後継者・農業関連産業従事者の育成	授業・実習でのあいさつを積極的に行い、コミュニケーション力の向上を図る。	A	A	専門教育充実のため資格の効果的な指導方法の確立。 この 2 年続く夏季の異常高温対策として、夏季実習・労働の安全性の面から熱中症対策として実施時期や内容の再検証。また、生産現場においても高温耐性品種や栽培方法の研修、施設設備の改修が必要。 タブレットや A i (人口知能) の農業教育への活用方法を検討。
		資格取得を推進し、専門教育指導力の強化を図る。	B		
		実習における評価を複数の指導者で適切に行い、勤労態度を身に付けさせる。	A		
	開かれた農場と地域交流の充実	幼保小中学校等に体験活動の場を提供し、交流活動や地域連携の継続発展を推進する。	A		
		直売会を年間 10 回程度開催し、生産物の販売をとおして地域活性化に貢献する。	A		
		外部の専門家による講義や実習を年 50 回以上実施し、専門知識・技術の学習を深化させる。	A		
	デジタル情報の積極活用	農業電子図書館やタブレットを活用し、デジタル農業教育を推進する。	B		
		クラスルーム・学校 H P 等に農場部行事についてアップし、積極的な情報発信に努める。	A		
寮務委員会	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を身に付けさせる。	A	A	事前提出書類の徹底
	寮運営の改善及び活性化	長期生の増減に伴った寮運営の在り方を検討し、次年度に向け準備をする。また、寮と農場との連携を検討する。また、営農講話など、就農に関する行事をできる限り実践する。	B	A	義務入寮の運営体制の検討
	家庭・地域との連携	寮の生活・規則について、保護者に対して周知・連携を図る。	A	A	こまめな家庭連絡の実施
1 学年	良好な人間関係の構築と基本的な生活習慣の定着	良好な人間関係の構築のため、授業やホームルーム、集会等を活用して、個人の多様性を認め合い、コミュニケーションが活発になるように努める。それにより、基本的な生活習慣の定着に努める。	A	A	欠席・遅刻が少ない。継続していきたい。
	進路実現に向けたキャリア・パスポートの実施	到達度テスト、性格適性検査をもれなく実施し、振り返りを行い、基礎学力の向上に努める。進路指導部等と連携を図り、進学・就職に向けた講演、グループワーク等を実施し、その都	A		例年よりも数件多く進路行事を実施し、生徒の意識付けを

別紙様式 2 (高)

		度、進路の手引き等を活用し、キャリア・パスポートの一助とし、自己肯定感を高め進路実現につなげる。			図った。
	積極的に活動に参加する生徒	農業クラブ活動をはじめ、成達会活動、部活動、ボランティア活動等への積極的な参加を促し、地域社会で必要とされる人財の育成を目指す。	B		積極的ではない部分が強いので意識付けをしていきたい。
2 学年	基本的生活習慣の定着と良好な人間関係の構築	欠席・遅刻・早退の連絡をはじめ、学校及び社会のルールやマナー・モラル等を周知し、規律ある基本的生活習慣を身に付けさせる。	B		基本的生活習慣の定着を継続的に行う。
	進路実現に向けた基礎学力の向上に努める	I C Tを活用し、復習する習慣を構築し、基礎学力の向上を目指す。また、基礎学力の向上により自己肯定感を高め、自らの進路選択を進める。	B		さらなる I C T(クラッシー)の活用
	積極的に活動に参加する生徒	学校の中核を担う学年として、農業クラブ活動をはじめ、成達会活動、部活動、ボランティア活動等への積極的な参加を促し地域社会で必要とされる人財の育成の一助とする。	B	B	積極的に活動を行う生徒を増やす。
卒学年	進路希望の実現	個々の進路実現のために、生徒・保護者と連携し、進路指導部・学科との連携を深めながら、小論文指導・面接練習などを繰り返し行う。	A		生徒の希望に合わせた個別の進学指導が出来た。
	基礎・基本の確実な定着と社会性の向上	S P I 問題集・模擬テストを計画的に実施して、常識力・基礎学力の向上を目指す。また、各教科および選択の授業を踏まえた上で、さらに課外授業等できめ細かい指導を行う。	B	B	問題集を活用した生徒自身の自主的な取り組みが必要である。
	規範意識の高揚	遅刻・欠席・身だしなみ指導や、進路ガイダンスを通して、規範意識や社会的マナーを身に付け、基本的生活習慣が確立するよう促す。	B		日々の働きかけと意識向上への声かけの実施を行った。
農業科	農業教育の充実	農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高めるとともに専門教育学習(プロジェクト学習等)を推進する。	A		授業やプロジェクト発表・実習を通し協同の精神を養うことが出来た。
	基本的生活習慣の確立	規則や時間を守り、自立できる基本的生活習慣を育てる。教師側も時間を大切に授業や実習を行う。	A	A	教師側がまず時間を守ることで生徒側にも意識付けを行った。
	進路希望の実現	専門的な分野の知識を定着させるため資格取得や鑑定競技などに積極的に取り組む。	A		多くの生徒が資格取得や鑑定協議に取り組む様子が見られる。
	学習環境の安全と美化	農場の整理整頓に努め、SDGs を意識したごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	B		農場の環境が以前よりも改善した。継続的な働きかけを行う。
	観点別評価のさらなる推進と授業の改善	指導と評価の一体化による授業改善や生徒の学習意欲の向上を図る。	A		生徒に評価を意識させる授業の取り組みが出来た。
畜産科	農業教育の推進	多種多様な動物に触れ、生命の大切さ、尊さ、思いやりや環境への関心を高める。 専門科目の座学や実習をととして、知識や技術を定着させ進路実現の一助となるよう教育内容の充実を図り、進路実現に結び付ける。 家畜飼養衛生管理の徹底および必要性を理解させ、定着させる。	A A B		専門的な知識を教え、生徒の進路指導に活かしていきたい。
	理解につながる授業改善	I C T 機器を活用した授業展開から、専門科目への興味・関心や理解力を高める。また、課題研究をととして意欲的に学習する態度の育成を図る。	B	A	ネットワークの充実や I C T 機器を積極的に活用する。
	プロジェクト学習の推進	プロジェクト学習をととして各種コンテスト等に積極的に取り組み、生徒が主体的に学ぶことができる学習環境を整える。	A		生徒が協働して主体的に行うことができた。
	畜産場の地域社会への開放	教育関連機関に体験活動の場を提供し、交流活動や地域連携の持続発展を推進する。	A		充実した活動ができた。

別紙様式 2 (高)

園芸科	授業改善によるわかりやすい授業の展開	観点別評価等を活用し、授業改善を図る。専門科目における教室授業(座学)と実験実習を有機的に結び付け、意欲的に学習する態度の育成を図る。	B	B	評価基準の精査と、座学・実習・校外活動を有機的に結びつける授業計画を検討する。
	園芸作物の栽培技術の習得と経営感覚の醸成	プロジェクト学習への取り組みを充実させ、自ら栽培した農作物を販売することで、消費者のニーズを意識したマーケットインの考え方を身に付けさせ、直売会や地域との連携事業に積極的に参加させることで、経営感覚の醸成を図る。	A		生パスタのバリエーションが増え、連携先の増加が見込めるが、今年度中で完結させられなかった。
	プロジェクト活動・課題研究発表会の充実	地域や関係機関との連携を深められる活動を強化することで、自ら問題を解決していく力とプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育成する。	B		
農業土木科	理解に繋がる授業改善	各学年において、段階的な学習活動を確立し、基礎・基本を踏まえた授業に改善し、目標や到達点を具体的かつ明確にし、理解できる授業の実施と授業内容の充実に努める。	B	A	I C Tを積極的に活用し、生徒の授業理解に繋がるような授業改善に努める。 外部との連携事業を増やし、最新の技術に触れ、土木技術に興味を持たせる。さらに、卒業後での即戦力を目指す。
	理論と実技の一体化	理論と実務演習を連動させた授業を展開することで、知識と技術の定着を図る。	A		
	プロジェクト学習の推進	社会貢献及び地域貢献を目標としたプロジェクト学習や課題研究の展開など、生徒が積極的、主体的に学ぶことができる学習環境を整える。	A		
	社会貢献・地域貢献活動の推進	生徒が学ぶフィールドを学校内および校外に広げることで生徒の学習意欲を高め、キャリア形成及びシティズンシップを高める学習機会を整える。	A		
生活科学科	目標を明確にした授業の展開	学べき技術・知識等をあらかじめ提示し授業で生徒が理解しやすいようにする。学べき内容をはっきりさせ、評価基準等も含めて生徒に示す。また、実習後は振り返りを行い、生徒に技術・知識を定着させるよう促す。	A	A	各学年の学習内容について体系化し、継続的で発展的な学習への転換が必要である。
	「つくって食べる」という食農教育の推進	自産自消、旬産旬消、地産地消を基本に有機農法で作物を作り、自給の体験を通して生きる力を養う。	A		圃場実習と座学学習の連携がスムーズに行うことができた
	学んだ内容を実生活で計画・実施・評価する授業の展開	栽培した作物・野菜を実生活で調理・加工して食べ評価・改善することで、健康で豊かな食生活への興味・関心を高めるための授業を展開する。	B		今年度は食生活習慣の現状把握につとめた
食品化学科	専門知識を定着させる分かりやすい授業の展開	授業改善を生徒の実態および理解度に応じて行い、食品に関わる三教科が連動した内容で展開することで、興味関心をもって学習する態度の育成を図る。	A	A	目標を概ね達成をしているが、さらなる技術習得を目指していく。
	進路決定に向けた授業改善	プロジェクト学習で課題解決や問題に対しての取り組みを通じて、資質や能力の伸長を図る。資格取得や職業体験、体験発表を交え、職業観を醸成する機会の創生と実現、関係機関との連携を強化し、生徒の進路決定を推し進める。	A		今よりも資格取得やインターンシップの機会を充実させ、進路決定に活か活かせるようにする。
	地域と連携した対外的な活動の充実	近隣地域の外部機関および企業、農家との連携を実現し、生産物直売所実習やインターンシップを活用した体験学習を展開し、マーケティングの考え、経営感覚の醸成を図る。	B		マーケティングなど経営感覚育成に関わる機会が不足したので、その点の改善を目指す。
農業経済科	基本的な生活習慣の確立	ホームルームや授業を通して身だしなみやマナーについて常に意識させる。	A	A	教員間で連携し、授業(資格取得)や進路意識を充実させることができた。 広報活動は、できなかったので来年度に引き継ぎたい。
	学習意欲喚起のための授業改善	生徒の理解度が高まるよう、全体での授業だけでなく、個人に応じた授業を展開できるように改善を図る。	A		
		インターンシップなど校外でも活躍の場を広げ、生徒の自主性を育てる。	A		
	進路指導の充実	進路意識を高め、自己の進路実現のための態度を育てる。	B		

別紙様式 2 (高)

	広報活動の充実	ホームページや学科通信の充実を図る。	C		
国語科	基礎・基本の確実な定着	生徒の実態を踏まえ、授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。	A	A	ICT 機器を用いた授業について、今年度は各教員が理解を深めてきた。次年度はそれらを共有し、ブラッシュアップできるよう機会を設けていく。
		授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。	B		
		漢字力をつけるため授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため漢検を活用する。	A		
	表現力の向上を図る授業改善（進路対策）	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成するような授業改善を行う。多様な教材を活用し、自ら考える力を養い、自己表現力を高め、個に応じた個別指導を充実させる。	A		
地歴・公民科	歴史的過程と地域的特色の違いを現代社会の問題解決につなげる授業改善。	生徒が授業内容と身近な事柄のつながりを実感できるよう、新聞や視聴覚教材など多種多様な教材の使用や ICT 機器の活用を積極的に行う。	A	A	教材研究や教員間の情報共有を充実させ、基礎学力の定着に努める。生徒が ICT 機器を活用し、主体的に学習に取り組む場面を積極的に設定していく。
		基本的な内容を精選し、各科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A		
		定期的に学習指導の手立てや工夫について情報交換を行い、指導力の向上に努める。	B		
	主権者としての自覚を涵養するための授業改善。	時事問題などを教材として積極的に取り入れ、学習意欲の向上と社会的な関心を喚起するための授業改善を図る。	A		
		定期的に小テストを実施し、基礎的な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	A		時事問題を取り上げながら、主権者として必要な知識を実践的に身に付けさせる。
数学科	基礎・基本の確実な定着、分かりやすい授業展開のための授業改善	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し授業改善に役立て、生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 進学希望の生徒に対して、希望する進路に沿って個別に課外を実施し対応する。	A	A	進学に数学を活かす生徒を見出すことができるよう、より上位層の学力向上を要する。併せて数学検定準 2 級の合格を目指す。
	数学検定資格取得の奨励	学期に 1 回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	A		
理科	教員の指導力の向上と授業改善・基礎学力の向上	積極的な授業公開や授業内容や指導法について情報交換を行うことで授業改善を図り、自己研鑽に努める。各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	A	A	基礎学力を身に付けるため、考査前に補習などを行う。理科と農業の関連性を理解させ、進学の個別指導のさらなる充実。
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と理科の関連性を理解させる。	B		
	進路指導への積極的な関わり	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	A		
保健体育科	協調性や協力性の育成	生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。	A	A	集団行動を徹底し、授業の開始と終了の規律をもって授業に取り組めるようにする。
		集団としてのきまりを守り、活動できる体育学習を展開する。	A		
	授業改善	目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	B		
芸術	芸術の興味関心を高めるための授業改善	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。	A	A	生徒の感性を育てるための教材を研究し、個に応じた教材を精選する。
		名品・名跡を鑑賞方法など授業改善し、自己の向上を図らせる。	A	A	
英語科	基礎・基本の確実な定着	単語や基礎的な文法問題の反復練習・確認を行い、苦手箇所を授業内で重点的に説明する。	A	A	基礎学力の定着に課題がある生徒への個別指導等が必要。
		授業プリントを定期的に点検して、学習の理解度を把握する。	A		

別紙様式 2 (高)

	モチベーションを向上させるための授業改善	A L Tを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。	A		上位層には積極的に資格緒取得を呼びかけ、英検準 2 級以上の合格を目指す。
		簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めるような授業を行う。	A		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接指導を積極的に行う。	A		
		S T E P 英検等、より上位の資格取得を奨励する。	B		
家庭科	家族・家庭、地域社会の課題を主体的に解決する能力、人間性等を涵養する学習指導 (授業改善)	基礎的・基本的な知識や技能の習得を図るとともに、I C Tの活用、グループワーク等を活用し、生徒主体の授業改善を行い、生徒の人間性等の涵養に努める。	A	A	適時適切な I C Tの活用場面、グループワークの設定場面の工夫がさらに必要である。
	家族・家庭、地域社会の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	生徒の興味・関心を高める課題設定を行い、家庭生活や地域社会をより身近な問題として自分事と捉え、その解決のための実践的な態度を養う。	A		実践的活動の設定場面、実施方法の工夫がさらに必要である。

※ 評価規準 : A (よくできた) B (普通) C (不十分である)